

シンガポール派遣参加報告書

京都大学文学部 4 回 榮福真穂

① 学習成果

今回の研修を通じ、外国で授業を受けたり、ディスカッションをしたりすることに対する漠然とした不安、恐怖心がなくなったことが報告者にとって最大の成果である。報告者は海外へ出た経験が乏しく、日本を出ることに対する漠然とした不安を感じていたため、留学も現実的な選択肢として考えたことはなかった。しかし今回の研修が非常に刺激的で楽しいものであったため、海外で活動することに対し自信を持つことができた。

また、英語学習の面では、話す能力よりも聞きとる能力が著しく不足しているという自分の傾向を把握することができた。今後の学習に生かしていきたい。

② 海外での経験

NUSの大学院生と交流した。英語を使って必要な情報を伝えあったり、会話を楽しんだりすることは報告者にとって初めての経験であった。英語能力に自信がないこともあり、研修の初めの頃は食堂で注文するのにすら相当な勇気を要するほどだったが、徐々に慣れることができた。研修の終盤では、現地の学生と片言の部分はあるながらも会話を楽しむまでになった。何より、このような経験によって、外国語の特に話す・聞く能力においては、実践に勝る上達の方法は無いのだということを実感することができた。

④ プログラム内容

今回の研修では6回のセミナーと大学院生カンファレンスが行われた。英語での授業に参加することは初めてだったが、前提知識を持っているトピックについてはある程度内容を理解することができた。しかし、普段親しんでいないトピックについてのセミナーでは話についていくことが難しく、英語能力の至らなさを痛感した。数回質問をすることができたが、基礎的な理解のためのものであり、議論を深めるようなものではなかった。次にこのような機会があれば、内容を理解した上で自分なりの着眼点からコメントができるようにしたい。

また、大学院生カンファレンスでは、報告者より一つ学年が上の先輩方が英語で発表するのを見て、報告者自身も自分の興味・関心や学習の成果を人に聞いてもらいたいという意欲が芽生えた。このように、他の参加者からも非常に良い刺激を受けることができた。

⑤ 進路への影響について

報告者は大学院へ進学する予定であるが、留学にあまり魅力を感じていなかった。自分が外国で生活し学習する能力があるとは思えなかったためである。しかし、今回の研修でのセミナーや交流は非常に楽しめたので、自分が外国で活動することに対して自信を持つことができた。今後は留学についても前向きに考えていきたい。このように、進路の選択肢が増えたことは報告者にとって大きな成果であるように思う。